

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	介護福祉特講(介護予防)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 水曜1・2限	教室名	体育室
担 当 教 員	加藤 明英	実務経験と その関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナー活動9年、大学での非常勤講師3年 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士			
《授業科目における学習内容》						
高齢者に対するの運動指導に関する理解、必要な知識、技術について自ら体験することで学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験:70% 出席率:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
介護運動予防トレーナー養成テキスト						
《授業外における学習方法》						
テキストを参考に復習を行う。また、授業で得た知識を実際に施設実習での活動に関連付けていく。						
《履修に当たっての留意点》						
介護の現場において高齢者へ運動指導することは必須になってきています。 今回の講義・実技を通して実際に自ら体験して適切に高齢者への運動指導が行えるようイメージしながら学習しましょう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者に対する筋力向上トレーニングの必要性、効果を説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマに おける 授業予定	高齢者に対する筋力向上トレーニングの目的と効果を理解する。			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者に対するトレーニング方法と注意点を理解し、指導ができる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマに おける 授業予定	高齢者に対するトレーニング方法と注意点、説明の仕方を理解する。			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者に対するストレッチングの目的・効果を理解し、指導ができる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマに おける 授業予定	高齢者に対するストレッチング指導時の注意点等の伝え方を理解する。			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	転倒予防の必要性を理解する。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマに おける 授業予定	高齢者が転倒しやすくなる原因を理解する。			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	転倒予防の運動指導ができる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
		各コマに おける 授業予定	転倒予防の必要性を理解し、予防方法を理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 授業を通じての到達目標	体力測定の意味・活用法を理解し説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	体力測定についての講義			
第7回	講義 授業を通じての到達目標	正しく体力測定を行うことができる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者体力測定実習1			
第8回	講義 授業を通じての到達目標	正しく体力測定を行うことができる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者体力測定実習2			
第9回	講義 授業を通じての到達目標	高齢者にとって必要なトレーニングを理解し説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者トレーニングについての講義・実習1			
第10回	講義 授業を通じての到達目標	高齢者にとって必要なトレーニングを理解し説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者トレーニングについての講義・実習2			
第11回	講義 授業を通じての到達目標	高齢者にとって必要なトレーニングを理解し説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者トレーニングについての講義・実習3			
第12回	講義 授業を通じての到達目標	高齢者トレーニングプログラム作成を行えるようになる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者トレーニングプログラム作成についての講義1			
第13回	講義 授業を通じての到達目標	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムの作成ができる。		・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	身体機能の向上を目的としたレクリエーションプログラムのをグループごとに作成する。			
第14回	講義 授業を通じての到達目標	身体機能を向上を目的としたレクリエーションプログラムの指導ができる。		・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	身体機能を向上を目的としたレクリエーションプログラムをグループごとに発表する。			
第15回	講義 授業を通じての到達目標	身体機能を向上を目的としたレクリエーションプログラムの指導ができる。		・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	身体機能を向上を目的としたレクリエーションプログラムをグループごとに発表する。			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期 木曜3・4限	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担 当 教 員	BSC	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
この授業では、効果的なプレゼンテーション技法を習得するために、その作成方法を中心に発表の方法までの一連の作業を学習する。さらに実際の卒業研究発表抄録を例とし、卒業研究に直接応用できるように内容を構成している。						
《成績評価の方法と基準》						
出席(20%)、平常点(10%)、課題・小テスト点(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
イーラーニングテキスト 対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。						
《授業外における学習方法》						
自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。 欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。						
《履修に当たっての留意点》						
出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉業界の業務で使用するスキルを活用できる	介護福祉業界講座 (ひやりはっ)	イーラーニングテキストで講義の内容を確認することができます。	
		各コマにおける授業予定	(業界講座)介護福祉業界の業務で使用するスキル			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	何を伝えるかを簡潔に示したスライドの作成の設計ができる	プレゼン基礎1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	アウトライン作成			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる	プレゼン基礎2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	図解の活用			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	表の活用・図表の効果的な表現をすることができる	プレゼン基礎3	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	表・図表の活用			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	画像とグラフの効果的な活用ができる	プレゼン基礎4	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	画像とグラフの活用			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	効果的なアニメーション効果の設定について理解し活用できる	プレゼン基礎5	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	特殊効果		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	効果的なスライド作成の手法を理解しスライドを作成できる	プレゼン基礎6	イーラーニングテキストで講義の内容を確認することができます。
		各コマにおける授業予定	抄録作成		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	プレゼンテーションを実施し評価することができる(1)	プレゼン基礎7	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	抄録発表/評価		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート集計ができる	プレゼン応用A	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	アンケート分析、データ集計		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を数値化できる (平均、分散、標準偏差)	初級データサイエンス(統計編)1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均と分散の意味と求め方/標準偏差の意味と求め方		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる1 (基本統計量を求める、ヒストグラムの作成)	初級データサイエンス(統計編)2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	分析ツールの使用/基本統計量の算出/度数分布表(ヒストグラム)の作成/標準偏差のグラフ図示		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる2 (散布図、相関係数を求める)	初級データサイエンス(統計編)3	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す/相関係数の算出		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	統計的検定を実施できる1	初級データサイエンス(統計編)4	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	母集団・標本・抽出について/統計的検定の手法について/t検定(一对の標本の平均値の差の検定)/F検定(分散の検定)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	統計的検定を実施できる2	初級データサイエンス(統計編)5	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	t検定の種類、使い分けについて/t検定(独立2標本の母分散が等しい平均値の差の検定)/t検定(独立2標本の母分散が等しくない平均値の差の検定)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	初級データサイエンス(統計編)で習ったことを実践できる	初級データサイエンス(統計編)まとめ	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	初級データサイエンス(統計編)復習問題の実施		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	介護福祉研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 水曜3・4限	教室名	501・502・PC室
担 当 教 員	上村 茜	実務経験と その関連資格	関西国際大学大学院にて博士課程を修了。臨床心理士、公認心理士としてカウンセラーとして勤務している			
《授業科目における学習内容》						
高齢者・家族にとってのより良い生活、の楽しみ・活動の支援・介助についてグループ研究として取り組む。知識を専門的に身につけ、現場の気づきから科学的な手続きを通して、幅広く共有可能な形にまとめて、論文を作成・発表することができる。						
《成績評価の方法と基準》						
グループ評価・・・卒業研究発表へのグループでの取り組み70%、出席20%、平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・Google Scholar CiNii						
《授業外における学習方法》						
研究のテーマは、臨床の現場に数多く存在します。常に、クリティカルな考えを持つことがよい研究テーマと出会えます。ものの考え方などを訓練することをおすすめします。						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉研究では学生自らが主体的に行います。グループでの取り組みとなるため、お互いに協力して進めていきましょう。教員はあくまで助言する立場であるため積極的に進めてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題選考のためのスライドや発表原稿を作成することができる 論文の形式に沿って、分かりやすくまとめることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	過去の卒業研究論文集を読んで、どのような論文の流れを項目順、図表を見て、イメージすることができる、選考基準を理解する			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題選考のためのスライドや発表原稿を作成することができる 論文の形式に沿って、分かりやすくまとめることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	過去の卒業研究論文集を読んで、どのような論文の流れを項目順、図表を見て、イメージすることができる、選考基準を理解する			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題選考のためのスライドや発表原稿を作成することができる 論文の形式に沿って、分かりやすくまとめることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	過去の卒業研究論文集を読んで、どのような論文の流れを項目順、図表を見て、イメージすることができる、選考基準を理解する			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	効果的に制限時間内におさえたスライドを作成する事ができる 質疑応答の準備ができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	優秀演題中間発表の場で効果的に制限時間内におさまるよう作成する事を理解する。どのような質問にも答えられるようにする事を理解する			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題グループとポスター発表グループに分かれ、卒業研究発表会準備をすることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	優秀演題グループとポスター発表グループ各々の流れ、方法を理解する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題グループとポスター発表グループに分かれ、卒業研究発表会準備をすることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	効果的なプレゼンテーションを理解する		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	発表準備 演題用スライド制作、ポスター印刷、ポスター発表原稿作成をすることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	効果的なプレゼンテーションを理解する		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	優秀演題グループとポスター発表グループに分かれ、卒業研究発表会準備をすることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	効果的なプレゼンテーションを理解する		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	中央公会堂にて 卒業研究発表会に聴講、発表することができる 疑問を持つことができ質疑応答に対応できる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	多くの発表グループの内容を理解する		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる 質疑応答の項目を文章に追加編集することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	卒業研究論文作成に必要な事柄を理解する		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる グラフや表を作成しわかりやすく表示することができる 参考文献を漏れなく記入することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	卒業研究論文作成に必要な事柄を理解する		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる グラフや表を作成しわかりやすく表示することができる 参考文献を漏れなく記入することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	記載基準を理解する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる グラフや表を作成しわかりやすく表示することができる 参考文献を漏れなく記入することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	記載基準を理解する		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる グラフや表を作成しわかりやすく表示することができる 参考文献を漏れなく記入することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	記載基準を理解する		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	論文形式に沿った論文を作成することができる グラフや表を作成しわかりやすく表示することができる 参考文献を漏れなく記入することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行	教科書の関連する項目を読んでおく。
		各コマにおける授業予定	記載基準を理解する		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護福祉特講(介護予防)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 木曜1・2限	教室名	体育室
担 当 教 員	加藤 明英	実務経験と その関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナー活動9年、大学での非常勤講師3年 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士			
《授業科目における学習内容》						
高齢者に多い病気の発症メカニズムを理解し、病気の予防、健康寿命を延ばすための方法を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験:70% 出席率:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
参考図書:健康運動指導士養成講習会テキスト上・下						
《授業外における学習方法》						
授業で配布した資料を用いて復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
日本は超高齢社会に突入し、従来の医療制度、老人保険制度では対応しきれない問題が生じています。その問題の解決方法の一つとして健康寿命の延伸があります。健康寿命の延伸方法について学び、実践することが日本の課題の解決策の一つであることを理解しましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の目的と効果について説明できる。	・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	運動の効果について理解する。 低負荷の運動の目的と効果を理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ストレッチングの種類とそれぞれの特徴を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	ストレッチングの種類ごとの目的と効果を理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スタティックストレッチングの運動プログラムを作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	スタティックストレッチングの目的と効果を理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ダイナミックストレッチングの運動プログラムを作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	ダイナミックストレッチングの目的と効果を理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニング理論を理解し、説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。	
	講義形式	各コマにおける授業予定	トレーニングの原則を理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニングマシンの特徴と効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	トレーニングマシンを利用した運動の目的と効果を理解する。			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	トレーニングマシンを用いたトレーニングプログラムが作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	トレーニングマシンを利用した運動の目的と効果を理解する。			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ダンベルやチューブの特徴と効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	ダンベルやチューブを使用した運動の目的と効果を理解する。			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ダンベルやチューブを用いたトレーニングプログラムが作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	ダンベルやチューブを使用した運動の目的と効果を理解する。			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	有酸素運動の特徴と効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	有酸素運動の目的と効果を理解する。			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	有酸素運動のトレーニングプログラムが作成できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	有酸素運動の目的と効果を理解する。			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動を継続するための方法を考え、実践できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	運動を継続することによる運動効果について理解する。			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康維持・増進するためのライフスタイルを提案できる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	健康維持・増進するためにどのような生活をすればよいか、グループごとに考える。			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康維持・増進するためのライフスタイルを提案できる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	健康維持・増進するためにどのような生活をすればよいか、グループごとに考え、発表する。			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康維持・増進するためのライフスタイルを提案できる。	・これまでの配布資料すべて	・配布資料を用いて復習する。
	各コマにおける授業予定	健康維持・増進するためにはどのような生活をすればよいか、グループごとに考え、発表する。			

学 科	介護福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	介護福祉研究	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期 木曜3・4限	教室名	PCルーム
担当教員	植田 恵梨香	実務経験とその関連資格	滋慶医療科学大学院大学にて修士課程を修了。特別養護老人ホームにてユニットリーダーを経験。現在は訪問介護事業所にて管理者兼サービス提供責任者を担う。修了後、学会発表後や論文執筆しながら、介護の問題について研究している。		

《授業科目における学習内容》

高齢者・家族にとってのよりよい生活、楽しみ、活動の支援・介助についてグループ研究として取り組む。知識を専門的に身につけ、現場の気付きから科学的な手続きを通して幅広く共有可能な形にまとめて、論文を作成・発表することができる。

《成績評価の方法と基準》

グループ評価・・・研究計画書70%、出席20%、平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行

《授業外における学習方法》

研究のテーマは、臨床の現場に数多く存在します。常に、クリティカルな考えを持つことが良い研究テーマと出会えます。ものの考え方などを訓練することをおすすめします。

《履修に当たっての留意点》1年生の後期からの続きの授業である

介護福祉研究では学生自らが主体的に行います。グループでの取り組みとなるため、お互いに協力して進めていきましょう。教員はあくまで助言する立場であるため積極的に進めること。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 テーマを絞り、背景、目的、意義、仮説の整合性があるか議論できる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	教科書の関連する項目を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	グループ、担当教員を発表し、今後の計画について講義する。研究計画書の作成		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 グループで議論し、仮説を設定し研究計画書を立案することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	教科書の関連する項目を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	研究計画書の作成		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 グループで先行文献を整理し、管理することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	教科書の関連する項目を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	研究に必要な参考文献を検索		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 量的研究か質的研究か、文献を参考にしてデータ収集方法、データ数、標本抽出法を検討することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	教科書の関連する項目を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	研究計画書の見直し		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 適切な調査方法を選択し、調査の準備をすることができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	教科書の関連する項目を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	調査方法に沿って準備(アンケート用紙、インタビュー内容など)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	調査対象者へ依頼し、調査を開始することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	研究依頼書の作成、電話依頼		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	調査対象者の確認、データ回収後のデータを管理することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	エクセルでデータ入力するためのフォーマット作成		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	データを回収し、エクセルに入力し管理することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	データをエクセルに入力		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	単純計算から度数分布を出し、項目ごとにおける状況を明確にすることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	データを分析し、カテゴリー化する		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	収集したデータを統制処理することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	適切な統計方法で分析する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	得られたデータから結果を導き出し、説明することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	データから結果を導き出す		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	得られた結果から考察を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	得られた結果から先行文献と比較し考察を深める		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	設定した仮説に対する結果を説明することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	仮説がどうであったか議論する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	学校規定の論文の基本構成を説明できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	研究成果の文章化を理解する		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	データの説明は図表を活用して、読み手に伝わる論文を書くことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料 	教科書の関連する項目を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	研究成果の文章を構成する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法		講義	
科 目 名	試験対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30	(2) 時間(単位)	
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 水曜1限	教室名	501		
担 当 教 員	角田則子	実務経験とその関連資格	ハローワーク雇用促進事業で医療。介護保険請求事務担当講師(ヒューマンアカデミー委託)5年, 大阪市オンブスマン特養利用者の聞き取り調査1年					
《授業科目における学習内容》								
前期で介護保険の仕組み、算定の仕方、介護報酬レセプトの記載方法を学習しました。後期は介護事務管理士技能認定試験の過去問題取組								
《成績評価の方法と基準》								
介護レセプト作成提出で内容の理解、的確な算定で評価								
《使用教材(教科書)及び参考図書》								
資料ブック、過去問題資料、事例資料								
《授業外における学習方法》								
課題事例のレセプト作成し間違った個所の点検と修正資料作成、ファイリング、過去問題の復習								
《履修に当たっての留意点》								
後期は介護事務管理士資格試験合格のための内容。テキスト、作成資料は持ち込み出来るので整理された資料作りを指導。								
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容			
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護給付費明細書の居宅・施設・地域密着の種別判断が理解出来る	試験対策問題プリント	問題プリント作成			
		各コマにおける授業予定	介護給付費明細書を作成					
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成			
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書を作成					
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成			
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書を作成					
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(居宅サービスの算定)を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成			
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの介護給付明細書の作成					
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(施設サービス)を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成			
		各コマにおける授業予定	施設サービスの介護給付明細書を作成					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(施設サービス)を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	施設サービスの介護給付明細書を作成		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(施設サービス)を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	施設サービスの介護給付明細書を作成		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(地域密着型サービス)を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	地域密着型サービス介護給付明細書作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の算定レセプトの記載(地域密着型サービス)を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	地域密着型サービス介護給付明細書作成		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	試験対策問題の実技は間違い探し。解答の手順を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	作成済みのレセプトを点検し間違い部分を見つける		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	試験対策問題の実技は間違い探し。解答の手順を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	作成済みのレセプトを点検し間違い部分を見つける		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題学科、実技解答手順を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	過去問題の学科、実技実施		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題学科、実技解答手順を理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	過去問題学科、実技実施		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護予防サービス・公費負担明細書作成の内容が理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	過去の試験には出題されていない事例実施		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	居宅、施設サービス公費負担(生活保護)明細書の内容が理解できる	試験対策問題プリント	問題プリント作成
		各コマにおける授業予定	過去の試験には出題されていない事例実施		

学 科	介護福祉科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	健康科学講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期 木曜1・2限	教室名	501・502
担当教員	加藤 明英	実務経験と その関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナー活動9年、大学での非常勤講師3年 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士			
《授業科目における学習内容》						
高齢者に多い病気の発症メカニズムを理解し、病気の予防、健康寿命を延ばすための方法を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験:70% 出席率:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
参考図書:健康運動指導士養成講習会テキスト上・下						
《授業外における学習方法》						
授業で配布した資料を用いて復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》						
日本は超高齢社会に突入し、従来の医療制度、老人保険制度では対応しきれない問題が生じています。その問題の解決方法の一つとして健康寿命の延伸があります。健康寿命の延伸方法について学び、実践することが日本の課題の解決策の一つであることを理解しましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 授業を通じての到達目標	健康の定義を説明できる。		・配布資料	・新聞等で医療費問題について記事を読み、日本の現状を理解する。	
	各コマにおける授業予定	健康の概念を理解する。				
第2回	講義 授業を通じての到達目標	健康寿命の重要性を説明できる。		・配布資料	・配布資料を用いて復習する。	
	各コマにおける授業予定	健康寿命の重要性について理解する。				
第3回	講義 授業を通じての到達目標	運動と健康の関係性を説明できる。		・配布資料	・配布資料を用いて復習する。	
	各コマにおける授業予定	有酸素運動の効果について理解する。				
第4回	講義 授業を通じての到達目標	生活習慣病について説明できる。		・配布資料	・配布資料を用いて復習する。	
	各コマにおける授業予定	生活習慣病の発症要因について理解する。				
第5回	講義 授業を通じての到達目標	ロコモティブシンドロームについて説明できる。		・配布資料	・配布資料を用いて復習する。	
	各コマにおける授業予定	ロコモティブシンドロームの発症要因について理解する。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	食事と健康の関係性を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	栄養の過不足と病気の関係性について理解する。		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	運動と健康の関係性について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	有酸素運動の効果について理解する。		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	運動と健康の関係性について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	筋力トレーニングの効果について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングの必要性について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	カウンセリングがもたらす効果について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	レクリエーションの効果について説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	レクリエーションの効果について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	模擬試験を通して理解度を把握する。	・模擬試験	・これまでの資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	模擬試験。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	メタボリックシンドロームの定義と判定基準を説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	メタボリックシンドロームについて理解する。		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	虚血性心疾患の発症リスクを説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	虚血性心疾患について理解する。		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	糖尿病、COPDの発症リスクについて説明できる。	・配布資料	・配布資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	糖尿病、COPDについて理解する。		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格	・資格試験	・これまでの資料を用いて復習する。
		各コマにおける授業予定	資格試験(健康ケアトレーナー)		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	試験対策講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 水曜1限	教室名	501
担 当 教 員	角田則子	実務経験とその関連資格	ハローワーク雇用促進授業介護保険請求事務担当講師(ヒューマンアカデミー委託)5年、大阪市オンブズマンで特養利用者の聞き取り調査(1年)			
《授業科目における学習内容》						
介護保険のしくみ、介護報酬の算定のしかた、介護報酬レセプト作成、介護事務管理士技能認定試験対策						
《成績評価の方法と基準》						
課題の確認問題、レセプト作成で評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ソラストテキスト①介護保険のしくみとサービス②介護報酬の算定のしかた③介護レセプトの書き方④資料ブック・理解度チェック課題						
《授業外における学習方法》						
確認問題、レセプト作成課題を宿題						
《履修に当たっての留意点》						
介護保険請求事務でサービスに対価が有り、サービス提供者が理解する内容の学習を段階的に積み重ねるよう指導。11月の介護事務管理士資格取得に向けての準備をする。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬の知識取得の目的を理解できる	テキスト1	テキスト確認問題解説準備	
		各コマにおける授業予定	1回目はガイダンスで介護保険、学習の進め方、資格取得の説明			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度を理解できる	テキスト1	テキスト確認問題解説準備	
		各コマにおける授業予定	保険給付、サービスの種類、サービス提供の流れ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険給付の種類の理解をすることができる	テキスト1、2	テキスト確認問題解説準備	
		各コマにおける授業予定	予防給付、介護給付について・居宅サービス、施設サービスについて			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービス内容の理解ができる①	テキスト1、2理解度チェック課題	テキスト確認問題解説準備	
		各コマにおける授業予定	介護保険サービス提供機関の居宅サービス、支援サービス			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービス内容の理解ができる②	テキスト1、2理解度チェック課題	理解度チェック課題解説準備	
		各コマにおける授業予定	施設サービス、地域密着型サービス			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬算定ができる	プリント	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの基本的な利用・単位の見分けと計算		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬算定、居宅サービスが理解できる	プリント	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	居宅サービスの基本的な利用・単位の見分けと計算		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる①	理解度チェック課題	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	居宅サービスレセプト記載方法①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる②	プリント	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	居宅サービスレセプト記載方法②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬算定、施設サービスについて理解できる	理解度チェック課題	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	施設サービスレセプト記載方法①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬、施設サービスについて理解ができる	プリント	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	施設サービスレセプト記載方法②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる	プリント	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	レセプト記載		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる	プリント	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	レセプト記載		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる	プリント	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	レセプト記載		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護報酬レセプト作成ができる	プリント	介護報酬の算定・請求事例問題
		各コマにおける授業予定	レセプト記載		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	手話と点字(点字)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 木曜3・4限	教室名	501・502
担 当 教 員	木戸口 恭子	実務経験と その関連資格	中学校・高等学校国語科教諭免許 四天王寺大学短期大学部講師 人間科学大学講師 大阪総合福祉専門学校講師 大阪市点訳ボランティア養成講座講師 泉大津市点訳ボ ランティア養成講座講師 大阪市視覚障がい者のための国語教室講師			
《授業科目における学習内容》						
視覚障がい者についての基礎知識を理解し、コミュニケーション手段として基本的な点字が理解出来るよう能力が身につく						
《成績評価の方法と基準》						
実技テスト70% 出席点20% 平常点(提出物)10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
初めての点訳						
《授業外における学習方法》						
授業中に配布するプリント、教科書で復習する						
《履修に当たっての留意点》						
1コマずつの積み重ねで理解の深めていくので根気よく学習してください						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連医学の基礎知識を身に付ける	教科書、配布資料	教科書の該当部分を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	「視覚」および「視覚障害」について視覚障害を引き起こす眼疾患について講義			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚障害に起因する介護上の諸問題が理解できるようになる	教科書、配布資料	教科書の該当部分を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	視覚障がい者への支援の方法を場面所に講義			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	残存機能の特性と活用が理解できるようになる	教科書、演習用プリント	教科書の該当部分を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	残存機能の特性を講義。触覚を用いる点字へと導入する。点字の特徴について講義			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションのひとつとしての点字を理解し、知識を深めることができる	教科書、演習用プリント	授業中の課題を仕上げ復習する	
		各コマにおける授業予定	点字の清音の読み方演習			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の読みに習熟することができる	教科書、演習用プリント	授業中の課題を仕上げ復習する	
		各コマにおける授業予定	点字の濁音、抑音の読み方演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	道具の正しく使い点字を書くことができる	教科書、携帯用点字器	点字一覧表で表裏関係を理解しておく
		各コマにおける授業予定	点字の表裏を理解し、点字器を用いて単語を書く		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の基本的な仮名遣いを理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	点字に特有の仮名遣いを理解した上で、点字で文章を書く		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	文節分ち書きの基本を理解することができる	教科書、携帯用点字器、演習プリント	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	分ち書きの基本ルールに従って点字を書く		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	間違いやすい分ち書きについて理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	自立語の中で間違いやすい形式名詞、補助動詞、こそあどに気をつけて点訳する		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	複合語の分ち書きを理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	複合語の中の切れ続きを学び、複合語を含む文章を点訳する		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の数字(アルファベット)の書き方を理解することができる	教科書、携帯用点字器、演習プリント	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	点字での数字の読み書き、数を含む語の書き方を学ぶ。アルファベットについての概要を知る		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	固有名詞の分ち書きを理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	人名、地名を正しく点訳する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の記号類の使い方を理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	基本的な記号類の使い方を学ぶ		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	書き方の実際について理解することができる	教科書、携帯用点字器	授業中の演習にミスがあれば修正し、復習する
		各コマにおける授業予定	見出しのついた文章の点訳の仕方を学ぶ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	点字の手紙文の書き方を知り、実践ができる	教科書、携帯用点字器	授業を振りかえり、しっかりと復習しておく
		各コマにおける授業予定	点字用郵便について学ぶ。また全15回の振り返りを実施する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	人間関係とコミュニケーション		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 月曜2限	教室名	401・402
担 当 教 員	松原 千加子	実務経験と その関連資格	社会福祉士として、高齢者を対象とした居宅介護支援事業所にて勤務。その他精神保健福祉士として、精神科クリニックでの実務経験あり。			

《授業科目における学習内容》

人間の尊厳の保持や自立の考え方、対人援助関係形成の基礎となる人間関係とコミュニケーションを踏まえたうえで、介護福祉士としての倫理基盤を身につける。さらに介護実践現場でチームで働く際に必要となるチームマネジメントの考え方と取り組みを理解する視点を養う。

《成績評価の方法と基準》

定期試験70%、授業態度10%、出席20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新 介護福祉士養成講座14 人間の理解 (中央法規出版)

《授業外における学習方法》

テキストやレジュメに出てきた重要な語句、説明について各自で考え、工夫して覚えるようにする。とくに、他の科目にも出てくる語句は重要なため、とくに意識して覚えるようにする。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉士として、求められるチームケアのあり方や視点を学び、チームマネジメントの考え方と取り組みを理解する。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 介護福祉士としての倫理基盤について理解を深め、自身の倫理観について考える。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
	各コマにおける授業予定	自分と他者の価値観の違いを理解する。対人援助職として、必要な自己覚知や自己開示について理解を深める。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 介護福祉士としての倫理基盤について理解を深め、自身の倫理観について考える。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
	各コマにおける授業予定	個人としての倫理観と専門職としての倫理観の違いについて理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 対人援助関係を形成するためのコミュニケーションの基礎について理解する。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
	各コマにおける授業予定	対人援助の基本的原則(バイステックの7原則)に基づき、自立を支えるための介護福祉実践のあり方について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 チームで働くにあたって必要となる組織におけるコミュニケーションについて理解する。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
	各コマにおける授業予定	組織におけるコミュニケーションの特徴、情報の流れ、求められるコミュニケーションのあり方について理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 介護実践におけるチームマネジメントの意義①について説明できるようにする。	テキスト 配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと ・授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
	各コマにおける授業予定	「介護サービスと他の仕事との違い」について考える。モノを扱う仕事と比べて気をつけなければならないことは何かを理解する。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践におけるチームマネジメントの意義②について説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	「ケアを展開する様々なチーム」について考える。同職種・多職種でチームをつくる意味について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践におけるチームマネジメントの意義③について説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	「ケアを展開する様々なチーム」について考える。同職種・多職種でチームをつくる意味について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアを展開するためのチームマネジメント①について説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	情報共有の場について考える。ケアに関する情報共有の場としてどのようなものがあつたか、整理してみる。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアを展開するためのチームマネジメント②について説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	リーダーシップ・フォロワーシップについて考える。実践現場におけるリーダー的役割とフォロワー的役割の違いについて理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアを展開するためのチームマネジメント③について説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	事例に基づき、チームケアを展開していく視点について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントについて説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	介護福祉士としてのキャリアをイメージする		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントについて説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	スーパービジョンの機能について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の目標達成のためのチームマネジメントについて説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	介護サービスを支える組織の機能と役割について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	組織の目標達成のためのチームマネジメントについて説明できるようにになる。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	介護サービスを提供している施設・事業所で、掲げられている組織の理念について考える。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期各テーマについて振り返り、当該科目への理解を深める。	テキスト 配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと 授業開始時に行う復習問題を用いてさらに復習を行うこと
		各コマにおける授業予定	介護実践におけるチームマネジメントの意義について理解を深める。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	健康科学講座		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 水曜2限	教室名	501・502
担 当 教 員	加藤 明英	実務経験と その関連資格	■実務経験 株式会社ティップネスでパーソナルトレーナー活動9年、大学での非常勤講師3年 ■資格 (公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、健康運動指導士			
《授業科目における学習内容》						
高齢者に対するの運動指導に関する理解、必要な知識、技術について自ら体験することで学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験:70% 出席率:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
介護運動予防トレーナー養成テキスト						
《授業外における学習方法》						
テキストを参考に復習を行う。また、授業で得た知識を実際に施設実習での活動に関連付けていく。						
《履修に当たっての留意点》						
介護の現場において高齢者へ運動指導することは必須になってきています。 今回の講義・実技を通して実際に自ら体験して適切に高齢者への運動指導が行えるようイメージしながら学習しましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 授業を 通じての 到達目標	自立支援について理解し説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	介護予防の基礎についての講義1 介護保険についてのあり方を理解する。				
第2回	講義 授業を 通じての 到達目標	高齢者の身体特徴を理解し説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	介護予防の基礎についての講義2 高齢者の身体について理解する。				
第3回	講義 授業を 通じての 到達目標	高齢者筋力向上トレーニングの必要性、効果を説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	高齢者における筋力トレーニングについての講義1 高齢者筋力向上トレーニングの必要性、効果、身体への影響を理解する。				
第4回	講義 授業を 通じての 到達目標	高齢者の身体特徴を考慮したトレーニングの負荷設定の方法について説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	高齢者における筋力トレーニングについての講義2 筋線維の収縮パターンやトレーニングの運動強度、回数、頻度等の設定方法を理解する。				
第5回	講義 授業を 通じての 到達目標	我が国の高齢化の現状について説明できる。		テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマに おける 授業予定	介護予防マネジメントについての講義1 高齢化の現状、介護予防の基本的な考え方について理解する。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護予防ケアマネジメントについてのポイントを整理する。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	介護予防マネジメントについての講義2 介護予防ケアマネジメントの4つのサポートについて理解、整理する。			
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症の概念、症状について説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	認知症予防についての講義1 認知症の概念、主症状、随伴症状について理解する。			
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知症疾患に適したアプローチ方法を理解し、説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	認知症予防についての講義2 認知症疾患へのアプローチについて理解する。			
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の失禁をめぐる問題や尿失禁の種類、対策について説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	失禁予防についての講義 尿失禁の種類、対策とについて理解する。			
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	転倒の定義、発生要因、リスク因子について理解し説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	転倒予防についての講義 転倒の要因、リスク、予防プログラム作成について理解する。			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	五大栄養素など栄養学の基礎、高齢期の食事の問題点、改善方法を理解し説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	低栄養についての講義			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	行動科学の基礎、法則を説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	行動科学についての講義1 行動科学の基礎、法則について理解する。			
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	セルフエフィカシーの重要性を理解し説明できる。	テキスト	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	行動科学についての講義2 セルフエフィカシーの重要性、高め方を理解する。			
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模擬試験を通じて自身の得意分野、不得意分野を理解する。	テキスト	教科書を見直す
	各コマにおける授業予定	模擬試験			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	資格試験合格	テキスト	教科書を見直す
	各コマにおける授業予定	資格試験(介護運動予防トレーナー)			

学 科	介護福祉科 I 部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	生命科学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 木曜3 4限	教室名	501・502
担 当 教 員	清水 一	実務経験と その関連資格	看護助手をへて、看護師になる。伯鳳会では、看護部長として9 年目になる			

《授業科目における学習内容》

人体のメカニズムを知り、実践で活用できるよう解説していく

《成績評価の方法と基準》

試験素点 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

日本医科大学名誉教授 浅野伍郎 監修 成美堂出版「からだのしくみ事典」 ・ 過去国試問題

《授業外における学習方法》

過去の介護福祉士の問題集を使用し国家試験問題に慣れ、傾向対策

《履修に当たっての留意点》

専門用語に慣れるようにアプローチしていく。国家試験の解説に時間をかけ、理解をできるよう努める。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	過去の国試問題集を 読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	過去の国試問題集を 読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 自分の苦手分野を知る
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 自分の苦手分野を知る
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 自分の苦手分野を知る
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 自分の苦手分野を知る
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 苦手分野の克服
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 苦手分野の克服
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 苦手分野の克服
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題になれ、対策ができるようになる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 苦手分野の克服
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去の国試験問題集を解いて、本試験にそなえることができる	国試問題集 (配布資料)	間違えた問題の復習 苦手分野の克服
		各コマにおける授業予定	国試問題		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護の基本Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 木曜3・4限	教室名	501・502
担 当 教 員	北川 千尋	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームに、介護福祉士として勤務した。			
《授業科目における学習内容》						
介護現場での、利用者を取り巻く様々な形の連携を知り、関連職種や機関の特性なども学ぶことにより、チームケアを担う介護職になることができる。また、介護場面での事故及び感染症対策の具体的な手法を学ぶことができる。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
中央法規 新・介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」						
《授業外における学習方法》						
授業で行った内容を、教科書や使用した授業プリントなどを用いて復習を行う。また、特に実習前には、授業で得た知識を施設実習で活かすことのできるよう、関連付けておく。						
《履修に当たっての留意点》						
「介護の基本」で学ぶ様々な資格や役割、利用者との関係や職場のスタッフとのチームワークの重要性をしっかりと理解することが必要です。専門職としての能力を養うため、理解出来ていない状態で終えないよう、また見逃さないよう受講することを期待します。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携を理解することができる。	・教科書 中央法規 新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。	
		各コマにおける授業予定	多職種連携(チームアプローチ)の意義と目的を学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書 中央法規 新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。	
		各コマにおける授業予定	利用者を支援するさまざまな専門職について、基礎的な理解を深め、多職種連携のあり方を学び、チームアプローチの心構えを養う。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書 中央法規 新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。	
		各コマにおける授業予定	地域連携の意義と目的について学び、地域にはどのような機関や組織があり、どのような役割を果たしているのか、基礎的な理解を深める。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護実践における連携について理解を深めることができる。	・教科書 中央法規 新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。	
		各コマにおける授業予定	地域にはどのような機関や組織があり、どのような役割を果たしているのか、基礎的な理解を深める。地域連携を進めるための、介護職の取るべき行動や考え方について理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解することができる。	・教科書 中央法規 新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。	
		各コマにおける授業予定	介護の質の向上がリスクマネジメントに繋がることを理解する。また、リスクに強い環境づくりの理解のため、ユニットケア等の復習をする。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リスクマネジメントに必要な要素を理解する。また、身体拘束について、緊急やむを得ない場合の対応や身体拘束がもたらす多くの弊害などについても学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	リスクマネジメントについて、事例を用いてグループワークを行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。また、利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	DVD鑑賞。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	生活の場での感染に関する正しい知識の必要性・利用者の特性を理解した感染対策について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護施設でみられる感染症の特性や対処方法について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護の特徴から、介護職自身の健康管理の必要性を学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護職に起こりやすいところとからだの障害(疾病)を学び、心身障害(疾病)の予防と対策を理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護に携わる人の健康管理について理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護職の健康や安全問題について事業者の取り組むべきことを理解し、労働安全対策と安全衛生管理体制などを学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士として関わる多職種との連携や役割、介護職員自身の健康管理に必要な基礎知識と技術を身に付けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 中央法規新 介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」 ・これまでの配布資料全て 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題があれば、実施しておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けて、全15回の振り返りを行う。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	社会の理解Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 木曜1・2限	教室名	501・502
担 当 教 員	武田 真澄	実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームの介護職員、生活相談員、施設ケアマネを経験し医療法人と社会福祉協議会の地域包括支援センターで主任ケアマネジャーとして勤務。現在は居宅介護支援事業所の管理者でケアマネ業務を行っている。社会福祉士・主任介護支援専門員資格			
《授業科目における学習内容》						
介護福祉士国家試験の過去問・予想問題を中心に問題を解きながら、解説、テキストへの振り返りを行い、社会制度についての理解を深めることができる。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
社会と制度の理解2 介護福祉士国家試験過去問						
《授業外における学習方法》						
授業で習った内容の復習と過去問を解く。ニュースや新聞等で福祉施策、高齢者、障害者制度の改正や動向に目を向ける。						
《履修に当たっての留意点》						
介護福祉士として必要な諸制度を実際の現場で応用できるようわかりやすく伝えます。また、覚えなければならない制度の仕組みについてポイントしっかり押さえていきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度にかかわる専門職の役割や内容、介護保険制度の改正内容等理解することができる。	教科書 配布プリント	介護福祉士・介護支援専門員・主任介護支援専門員について学習しておく。	
		各コマにおける授業予定	介護保険制度による専門職の役割～介護保険制度の動向			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICFを理解する。支援費制度～障害者自立支援法～障害者総合支援法を理解することができる。	教科書 配布プリント	障害者福祉施策の動向について調べる。	
		各コマにおける授業予定	障害者にとっての自立～障害者自立支援制度の仕組み			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	支援費制度～障害者自立支援法～障害者総合支援法を理解することができる。	教科書 配布プリント	障害者自立支援法、障害者総合支援法について内容をまとめる。	
		各コマにおける授業予定	障害者にとっての自立～障害者自立支援制度の仕組み			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	国、都道府県、市町村の役割について理解できる。	教科書 配布プリント	国、都道府県、市町村の役割をきちんと整理しておく	
		各コマにおける授業予定	障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割～これからの障害者福祉施策			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	相談支援機関や就学前期の制度や各種機関について理解できる。	教科書 配布プリント	学齢期に活用できる支援制度、相談機関等まとめる。	
		各コマにおける授業予定	障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割～これからの障害者福祉施策			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常生活自立支援制度、成年後見制度について理解できる。	教科書 配布プリント DVD視聴	成年後見制度の種類を覚える。
		各コマにおける授業予定	人々の権利を保護する諸制度～保健医療にかかわる諸施策～医療にかかわる法と諸施策		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	虐待防止の諸制度、医療関係者に関する法制度を理解できる。	教科書 配布プリント	虐待の種類、精神保健福祉法に基づく入院形態の内容を覚える。
		各コマにおける授業予定	人々の権利を保護する諸制度～保健医療にかかわる諸施策～医療にかかわる法と諸施策		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活保護制度について扶助の種類が言える。福祉施設の種類を覚えることができる。	教科書 配布プリント	保護の種類内容、支給方法を覚える。高齢者・障害者の住まいの種類を整理する。
		各コマにおける授業予定	生活を支える諸制度のあらし～高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	私たちの生活と社会福祉まとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	社会保障のしくみまとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	社会保障のしくみまとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度まとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	介護保険制度まとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題の傾向を理解し対応できるようになる。	教科書 配布プリント	プリントを復習し理解できるまでテキストで振り返りを行う。
		各コマにおける授業予定	障害者自立支援制度～人々の権利を保護する諸制度のまとめ国試問題等問題を振り返り、解説を行う。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問振り返りすることで重要ポイントを理解し国試に対応できる。	教科書 配布プリント	重要ポイントを整理し授業内容を振り返る。
		各コマにおける授業予定	国試問題等の振り返り、重要ポイントの説明。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	介護の基本Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期 火曜1・2限	教室名	501・502・体育室
担 当 教 員	山本満佐子	実務経験と その関連資格	専門学校にて長年にわたりレクリエーション・インストラクター養成にたずさわっている。また、京都府レクリエーション協会の副会長、さらに指導委員長として養成講習に携わっている。【資格】レクリエーション・コーディネーター、スポーツレクリエーション指導者、障害者スポーツ指導員中級、コミュニケーションファンリテイター、レクリエーションサポーター			
《授業科目における学習内容》						
高齢者・障がい者の介護の現場でのレクリエーションにおける声かけの方法やアレンジの方法を体得する。更に現場実習や体験学習を経験する中でレクリエーション財を知り、更にレクリエーション財を自分達で考えたり、工夫しながら、レクリエーション支援者として必要な援助技術を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験(実技・発表・提出物):70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
関係資料配布、1年生で学んだテキスト						
《授業外における学習方法》						
学生の地元や大阪府、さらに各市町村のレクリエーション協会が開催するイベントやボランティア活動に進んで参加し、高齢者・障がい者を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方を体験をすることで、自立支援につながるレクリエーションを実践できる技術を体得する。						
《履修に当たっての留意点》						
1年次の授業で学んだことをもとに、高齢者・障がい者を支える支援者にとってのレクリエーションのあり方を実践を通して学ぶ。模擬体験をすることで、自らが「楽しむこと」「笑顔でいること」の大切さを学び、さらに自立支援につながるレクリエーションの方法を学ぶ。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1年生で学んだ事をふりかえり、今期につなげ、授業の趣旨、内容が理解できるようになる	1年次で記録したノート	1年次の事前復習	
		各コマにおける授業予定	前期授業説明と体育館利用上の注意事項 授業の進め方、評価の方法などを説明する			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	介護現場での音楽レクリエーションの実際を学び実践できるようになる	配布資料 思い出カルタ	講義内容の見直し	
		各コマにおける授業予定	介護現場での音楽レクリエーションの在り方を体験する			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	歌に合わせたオリジナル健康体操ができるようになる	必要なものがあれば、各自準備する	書いたものを見ないで発表できるように、ペアで練習	
		各コマにおける授業予定	ペアで健康体操のオリジナルに挑戦			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	健康体操発表 / 高齢障害者のレクリエーション が実践できるようになる	配布資料	書いたものを見ないで発表できるように、ペアで練習	
		各コマにおける授業予定	発表			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	集団コミュニケーションの展開の方法ができるようになる	配布資料	講義内容の復習	
		各コマにおける授業予定	グループ分けをして、演習に向けて計画を立てる			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	第5回に配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 1. 演習		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 2. 演習		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 3. 演習		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 4. 演習		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 5. 演習		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 6. 演習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 7. 演習		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 8. 演習		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	グループによるレクリエーション活動の展開ができるようになる	各グループで演習に必要なものを準備	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	グループワーク・コミュニケーション 9. 演習		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	レクリエーション・インストラクターにとって必要なものは何かを確認することができる	配布資料	今までに配った資料の見直し
		各コマにおける授業予定	介護現場におけるレクリエーション・インストラクターの役割・まとめ		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	生活支援技術 I (演習)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 木曜日1・2限	教室名	調理実習室
担 当 教 員	西山 貴子	実務経験と その関連資格	介護老人保健施設・病院の管理栄養士として勤務。その後、各種専門学校(調理師・製菓衛生士、介護福祉士等)、栄養士・管理栄養士養成短大・大学等にて講師。その他、特定保健指導、クリニックの栄養指導なども経験。			
《授業科目における学習内容》						
介護の現場では、利用者の衣類を修繕したり、調理のサポートが必要となる。被服・調理実習を通して、高齢者の生活の実際と対応を学び、生活支援するための基本技術を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
試験:70%、出席評価点:20%、平常点:10点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> 最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I 中央法規 (参考) 中学や高校等で使用した「家庭総合」の教科書 (参考) 調理の基本(だしの取り方・みそ汁の作り方・野菜の切り方・ゆで型・煮物など)が解説されている料理本 (参考) 高齢者のための調理法や工夫が示された料理本 						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> 自分の裁縫道具を持ち、自分や家族の衣類のボタンつけなどの修繕・補修を心掛ける 「食事は作るもの」という意識をもち、料理を心掛ける。 1年生で学んだ、特に食生活分野を確認しながら授業の受講をすること。 						
《履修に当たっての留意点》						
<ul style="list-style-type: none"> エプロン・三角巾・裁縫道具の準備、調理の練習をしておくこと。調理実習では、清潔に努め、身だしなみを整えて実習に望むこと。また、刃物等をしようするため、細心の注意を払うこと。レポート等の提出物の提出期限に注意すること。 						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	調理の基本(手洗い・身支度等)が理解・実践できる。 献立の立て方・行事食について理解・復習する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 配布レジュメ 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から自炊をすること 体調にあわせた「食」を考え実践すること 授業終了時に示す課題を実施しておくこと 	
		各コマにおける授業予定	調理の基本 手洗い・身支度・献立の立て方・行事食について			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	調理実習の心構えや調理の基本操作が理解・実践できる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 配布レジュメ 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から自炊をすること 体調にあわせた「食」を考え実践すること 授業終了時に示す課題を実施しておくこと 	
		各コマにおける授業予定	調理実習のオリエンテーション・調理の基本操作 ・調理実習を始める前の心構え・調理室の使い方・野菜の切り方・計量・だしの摂り方について			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	だしの種類、取り方、ご飯の炊き方、野菜の切り方、作り方について理解し、実習に向けて班でどのように実習を行うか計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 配布レジュメ 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から自炊をすること 体調にあわせた「食」を考え実践すること 授業終了時に示す課題を実施しておくこと 	
		各コマにおける授業予定	調理実習のレシピ説明 作り方の説明及びポイント等について			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	だしをとる、ご飯を炊く、野菜の切り方、計量をきちんと理解・実践できる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 配布レジュメ 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から自炊をすること 体調にあわせた「食」を考え実践すること 授業終了時に示す課題を実施しておくこと 	
		各コマにおける授業予定	調理実習:和食の基本 ・ご飯、だしの取り方(合わせだし、煮干しだし)、味噌汁、だし巻き卵、ほうれん草のお浸し、切干大根の煮物)			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	和食の配膳が出来る。調理過程を考察する。調理器具・食器類を元の位置に衛生的に片づけられる。一連の流れを実践出来る。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I」 配布レジュメ 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から自炊をすること 体調にあわせた「食」を考え実践すること 授業終了時に示す課題を実施しておくこと 	
		各コマにおける授業予定	調理実習:和食の基本 ・ご飯、だしの取り方(合わせだし、煮干しだし)、味噌汁、だし巻き卵、ほうれん草のお浸し、切干大根の煮物)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 高齢者の食への配慮や嚥下・嚥下困難な食について理解する。	各コマにおける授業予定 介護食について ・摂食機能を考慮した調理形態・調理の工夫について	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊すること ・「嚥下困難」について復習し学びを深めておく ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	第7回	講義 実習形式	「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」「かまなくてよい」を理解する。作り方について理解し、実習に向けて班でどのように実習を行うか計画を立てる。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標 介護食「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」の違いを理解・実践できる。	各コマにおける授業予定 調理実習:介護食 ・全粥、鮭そぼろ、豆腐ハンバーグ、ほうれん草とはんぺんのお浸し、マッシュカボチャ、白玉豆腐	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・日頃から自炊すること ・「嚥下困難」について復習し学びを深めておく ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	第9回	実習形式	介護食「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」の違いを理解・実践できる。調理過程を考察する。調理器具・食器類を元の位置に衛生的に片づけられる。一連の流れを実践出来る。		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 被服生活の基本を理解・実践できる。	各コマにおける授業予定 被服生活の基本 ・被服とは・和服・被服の管理・被服の素材・被服の洗濯について	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・簡単な衣類の修繕(ボタン付けなど)は、自分で行うこと ・日頃から自炊すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	第11回	講義 演習形式	衣類の修繕・補修に必要な基本となる裁縫技術を身につけることが出来る。(玉結び・玉止め・なみ縫い・半返し縫い・本返し縫い・まつり縫い、ボタン付け)		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標 基本となる裁縫技術を用いて作品を作り、裁縫技術の向上が出来る。	各コマにおける授業予定 被服実習 作品制作(モンキーソックス)	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・簡単な衣類の修繕(ボタン付けなど)は、自分で行うこと ・日頃から自炊すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	第13回	実習形式	基本となる裁縫技術を用いて作品を作り、裁縫技術の向上が出来る。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 基本となる裁縫技術を用いて作品を作り、裁縫技術の向上が出来る。作業をより美しく・早く・確実に行うことが出来る。	各コマにおける授業予定 被服実習 作品制作(モンキーソックス)作品 提出	・教科書「最新/介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 ・配布レジュメ	・簡単な衣類の修繕(ボタン付けなど)は、自分で行うこと ・日頃から自炊すること ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと
	第15回	講義 演習形式	調理実習・被服実習で学んだことを介護の現場で生かすことができるようになる。		
		各コマにおける授業予定 まとめ ・調理実習・被服実習で学んだこと、身についたことについてまとめる			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	生活支援技術Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期 水曜日3・4限	教室名	介護実習室
担 当 教 員	上木大雅	実務経験と その関連資格	介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務			
《授業科目における学習内容》						
現場で実際に行われている応用の介護技術について、グループワーク・ビデオ鑑賞を通して学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
科目終了試験(70%) 出席評価点(20%) 平常点(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
中央法規出版 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」 第2版						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> ・実習で学んだ現場での介護技術を復習しておく ・介護技術の応用について教科書等で予習しておく 						
《履修に当たっての留意点》						
<ul style="list-style-type: none"> ・必ずグループで協力して行う。 ・提出物もグループの連帯責任とする。 						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジユメ配布		実習で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・実習Ⅱ-②のなかで、学んだ現場での介護技術について個々に振り返る。 ・介助の良かったポイント、悪かったポイントを考える。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジユメ配布		実習で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	・実習で学んだ介護技術について、個々に考えたことをグループで話し合う。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジユメ配布		実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	グループで話し合った内容をまとめ、発表に向けての準備を行う。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジユメ配布		実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	グループワークの内容を発表する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、現場での体験から介護技術の復習ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジユメ配布		実習で学んだ介護技術を復習しておく。グループでの意見をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	グループワークの内容を発表する。(前回の続き)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗方法を身につけ、移乗ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・スーパートランスについて学習する。(ビデオ鑑賞、実践)		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗方法を身につけ、移乗ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・椅子を使った移乗介助(一部介助、全介助)について学習する。		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	・福祉用具を使用した移乗方法を学び、できるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・スライディングボードやスライディングシートを使用した移乗方法を学習する。		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	・応用の移乗介助を身につけ、移乗ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・ビデオ鑑賞 ・床に座った状態から車椅子への移乗方法について学習する。(体育室にて)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	応用の移乗介助を身につけ、移乗ができるようになる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	授業内容について教科書などで調べておく
		各コマにおける授業予定	・床に座った状態から車椅子への移乗方法について学習する(体育室にて)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	・医療的な知識・技術を身につけることができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	教科書の指定部分を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	・ストマの使い方、包帯の巻き方、服薬について学習する。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	・AEDの使い方を身につけることができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	教科書の指定部分を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	AEDの使い方、使用時の注意点について学習する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・後期に学んだ応用の介護技術が身につけている。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	後期に学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	・後期に学んだ応用の介護技術の振り返りを行い、復習する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・後期試験に向けての対策ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	後期に学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	・試験内容の発表、対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	・後期試験に向けての対策ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 レジюме配布	後期に学んだ内容を復習しておく
		各コマにおける授業予定	・試験内容練習		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	生活支援技術Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期 水曜日3・4限	教室名	介護実習室
担 当 教 員	上木大雅	実務経験と その関連資格	介護福祉士として介護老人保健施設にて5年勤務			
《授業科目における学習内容》						
<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援を重視し、事例に基づいて支援内容を考え実践できるようになる。 ・グループで支援内容を考え、チームで取り組む力を身につけることができる。 ・事例問題を繰り返し実施し、応用力が身につくようになる。 						
《成績評価の方法と基準》						
科目終了試験(70%) 出席評価点(20%) 平常点(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
中央法規出版 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」 第2版 中央法規出版 実技試験のチェックポイント 国学評価社 わかる介護技術DVD 介護福祉士国試実技試験対策 第2版						
《授業外における学習方法》						
教科書の指定部分、プリント(チェックシート)を確認し、介護技術の基本と応用を予習・復習しておく						
《履修に当たっての留意点》						
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ力をつけられるよう、常にチームで協力する。 ・介護技術の基本を理解した上で、応用力を身につける 						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活支援技術Ⅲの授業内容について理解することができる。 環境整備(ベッドメイキング)が正しく行うことができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、グループ分け 環境整備ベッドメイキングの復習(グループの代表者が発表)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1年生で学んだ介護技術の基本が理解できている。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	基本的な介護の事例問題(グループ検討、実施)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで1人ひとりが意見を出し合うことができる。 事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例15)をグループで検討する。 手順シートの作成、練習の実施			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで役割分担を行い、発表を実施することができる。 事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例15)の練習・発表の実施			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで協力して正しい介助方法が導き出せる。 事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例11)をグループで検討する。 手順シートの作成、練習の実施			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで役割分担を行い、ポイントをおさえた発表ができる。事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例11)の練習・発表の実施		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで協力して正しい介助方法が導き出せる。事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例25)をグループで検討する。手順シートの作成、練習の実施		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで役割分担を行い、ポイントをおさえた発表ができる。事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例25)の練習・発表の実施		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで協力して正しい介助方法が導き出せる。事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例8)をグループで検討する。手順シートの作成、練習の実施		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで役割分担を行い、ポイントをおさえた発表ができる。事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例8)の練習・発表の実施		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで協力して正しい介助方法が導き出せる。事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	教科書の指定した範囲を読んでおく。1年生で学んだ介護技術を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例18)をグループで検討する。手順シートの作成、練習の実施		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	グループで役割分担を行い、ポイントをおさえた発表ができる。事例内容を理解し、正しい介助方法が行える。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	発表時の担当を確認し準備・練習しておく。
		各コマにおける授業予定	国家試験問題(事例18)の練習・発表の実施		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ内容を理解し、実践することができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	前期で学んだ内容を復習し、実践できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	前期のまとめ、試験についての説明		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	試験に向けての対策ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	前期で学んだ内容を復習し、実践できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	前期に実施した事例問題の復習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	試験に向けての対策ができる。	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」第2版 実技試験チェックポイント	前期で学んだ内容を復習し、実践できるようにしておく。
		各コマにおける授業予定	試験に向けての練習の実施		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護過程 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期 月曜日2限	教室名	501
担 当 教 員	上木大雅	実務経験と その関連資格	介護福祉士 介護老人保健施設にて5年勤務			
《授業科目における学習内容》						
これまでに学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者の個別性を理解する。介護計画を立案を通じて、利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。						
《成績評価の方法と基準》						
科目終了試験:70% 出席評価:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版(中央法規) ヘルプマンに学ぶ介護過程(中央法規)						
《授業外における学習方法》						
実習で作成した介護計画の振り返りをしておく。事例問題の際は、事前に連絡しますので事例を読んでおくこと。介護実習での介護計画の立案・実施						
《履修に当たっての留意点》						
介護現場において根拠のある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、実習で作成した介護計画を振り返り学ぶことができる。		最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書を事前に読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	授業オリエンテーション、介護過程の展開の振り返り				
第2回	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、介護過程の展開を学び、理解できる。		最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 プリントを見直す。	
	各コマにおける授業予定	実習Ⅱ-①で立案した介護計画を個人で振り返る。				
第3回	授業を通じての到達目標	実習を振り返り、介護過程の展開を学美、理解できる。		最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 プリントを見直す。	
	各コマにおける授業予定	実習Ⅱ-①で立案した介護計画をグループで振り返る。 介護計画を立案についてグループで共有する				
第4回	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画の実施と評価を理解することができる。		最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 プリントを見直す。	
	各コマにおける授業予定	介護過程、介護の実施、介護の実施の記録				
第5回	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画の実施と評価を理解することができる。		最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 プリントを見直す。	
	各コマにおける授業予定	介護過程、介護計画の評価				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程とケアマネジメントの関係について理解ができる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護過程とケアマネジメントの関係について介護支援専門員から学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解することができる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	チームアプローチにおける介護福祉士の役割を学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画を立案できる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	事例より、介護計画の立案ができる。(情報収集)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画を立案できる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	事例より、介護計画の立案ができる。(アセスメント)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画を立案できる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	事例より、介護計画の立案ができる。(アセスメント)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画を立案できる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	事例より、介護計画の立案ができる。(計画の立案)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践的展開、介護計画を立案できる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	事例より、介護計画の立案ができる。(計画の立案)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護計画の作成を振り返り、介護過程の展開について理解を深める。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	作成した介護計画について、グループで共有し意見を出し合う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の国家試験問題を理解し解くことができる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	介護過程の過去問題よりミニテスト実施。解答と解説。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期のまとめを通し、振り返りができる。	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程第2版 ヘルプマンに学ぶ介護過程	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。プリントを見直す。
		各コマにおける授業予定	前期のまとめ、テストについての説明。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護過程Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 金曜2限	教室名	501・502
担 当 教 員	海藤 智子	実務経験と その関連資格	看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年			
《授業科目における学習内容》						
これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:新・介護福祉士養成講座 介護過程						
《授業外における学習方法》						
介護実習において介護計画の立案・実施						
《履修に当たっての留意点》						
介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座		・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例を通して介護計画のあり方を学ぶ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座		・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例を通して介護計画を立案する			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座		・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例の介護計画を立案後、多職種連携について検討する			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座		・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例の介護計画を報告し報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境の変化を意識した介護過程を理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座		・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	在宅から高齢者施設へ環境が変化する事例の介護計画を報告し報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	サービス提供計画の理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	サービス提供計画の事例を用いてサービスを提供するために必要な制度や仕組みの理解をする		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	サービス提供計画の理解することができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	サービス提供計画に沿ってサービスを提供するだけでなく利用者のニーズをどのように反映するか理解する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場で活躍するゲストスピーカーから介護過程を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	入居施設での介護過程の展開の流れをワークシートに記入する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場で活躍するゲストスピーカーから介護過程を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	入居施設での介護過程の展開の流れをワークシートに記入する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	現場で活躍するゲストスピーカーから介護過程を学ぶことができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	居宅支援事業所での介護過程の展開の流れをワークシートに記入する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践に必要なことをまとめることができる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	前回のゲストスピーカーの体験談を元に介護過程の実践のために必要なことを検討する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程の実践するための計画を立案できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	実習計画用のワークシートを使い、介護計画の実践を立案し実施可能であるか検討し修正する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で行う介護過程の展開の実施について確認できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	カンファレンスでのスーパービジョンの受け方と活かし方を学ぶ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で行う介護過程の展開の実施について確認できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	評価からの修正と多職種との連携の方法を学ぶ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習で行う介護過程の展開の実施について確認できる。	教科書:新・介護福祉士養成講座	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	チームアプローチの中で介護福祉士の役割を学ぶ		

学 科	介護福祉科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護過程Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期 月曜3限	教室名	501・502
担 当 教 員	海藤 智子	実務経験と その関連資格	看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年		

《授業科目における学習内容》

これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者に個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座 介護過程

《授業外における学習方法》

介護実習において介護計画の立案・実施

《履修に当たっての留意点》

介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
	各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第2回	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
	各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第3回	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
	各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第4回	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
	各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第5回	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	・教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 ・配布資料	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
	各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	業界セミナーに参加し、各施設に理念や概要、取り組みなどの情報を得て比較分析し研究することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:「よくわかる介護福祉研究入門」矢原隆行 配布資料 	関連する施設のパンフレットやホームページをよく見ておくこと
		各コマにおける授業予定	福祉業界の専門領域の知識を、施設職員と積極的にコミュニケーションをとることによって理解することができる		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護過程Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 月曜3限	教室名	501・502
担 当 教 員	海藤 智子	実務経験と その関連資格	看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年			
《授業科目における学習内容》						
これまで学んだ介護の知識、技術を活かし介護過程を展開する上で利用者へ個別性を理解する。また、介護計画を立案し利用者主体の適切な介護サービスの意味を理解できるようにする。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:新・介護福祉士養成講座 介護過程						
《授業外における学習方法》						
介護実習において介護計画の立案・実施						
《履修に当たっての留意点》						
介護現場において根拠ある生活支援をするために必要な内容です。学内の講義と実習での演習を繋ぐ学びを意識すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	実習の体験を振り返り学びを深めることができるようになる。		教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	実習報告会の準備をワークシートを使用し振り返る				
第2回	授業を通じての到達目標	実習の体験を振り返り学びを深めることができるようになる。		教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	実習報告会の準備をワークシートを使用し振り返る				
第3回	授業を通じての到達目標	実習の体験を振り返り学びを深めることができるようになる。		教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	実習報告会の準備をワークシートを使用し振り返る				
第4回	授業を通じての到達目標	実習報告会を通して学びを深めることができるようになる。		教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	報告を受けた側は質問や違う視点でコメントする。質問やコメントの対応をすることで学びを深める				
第5回	授業を通じての到達目標	ケアマネジメントの全体像を理解することができるようになる。		教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	講義を受けケアマネジメントの理念・目的や流れについて理解する				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアマネジメントと介護過程の関係を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	講義を受けケアプランと個別介護計画の関係性を学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるチームアプローチの実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	教科書の事例を参考に介護計画を立案、実施、評価するまで誰が関わり、どのようなアプローチができたか考える		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるチームアプローチの実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	教科書の事例を参考に介護計画を立案、実施、評価するまで誰が関わり、どのようなアプローチができたか考える		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるチームアプローチの実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	教科書の事例を参考に介護計画を立案、実施、評価するまで誰が関わり、どのようなアプローチができたか考える		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護過程におけるチームアプローチの実際について学ぶことができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	教科書の事例を参考に介護計画を立案、実施、評価するまで誰が関わり、どのようなアプローチができたか考える		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の介護過程を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	人が死ぬということを多角的な視点で理解する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の介護過程を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	自らの死生観を向き合い他の学生と気持ちを共有する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の介護過程を理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	DVDを視聴し高齢者が亡くなった後の事柄について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士としての専門性を介護過程を通して理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	個人でワークシートを使用し介護福祉士の専門性とは何か考えをまとめる		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士としての専門性を介護過程を通して理解することができるようになる。	教科書:新・介護福祉士養成講座 配布プリント	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	前回の個人ワークシートを使用しグループワークを行い共有する		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	こころとからだのしくみⅡ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 火曜3限・4限	教室名	501・502
担 当 教 員	立脇 一美	実務経験とその関連資格	看護師としての臨床経験が約30年。社会福祉士として介護認定審査会委員を約20年。介護支援専門員・認知症ケア専門士の資格あり。			

《授業科目における学習内容》

人間の生活行為の一つひとつには、なぜその行為を行うのかという理由や根拠が必ず存在する。またその行為を遂行するために、タイムリーに「こころ」と「からだ」の機能が柔軟に変化し続け、同時に双方がバランスを保っている。特に高齢者や障害者などは心身機能の低下が生活機能に及ぼす影響が大きく、具体的には現場において、心身機能を考慮した上での質的対応が必要となる。

一つの生活行為に随伴してからだの中でどのようなことが起こっているのか、解剖生理学的な理解を中心に、生活援助の妥当性について説明することができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ(中央法規)

《授業外における学習方法》

次回授業予定の内容について、教科書の該当範囲を熟読しておくこと(1時間程度)。

授業終了後、板書内容や教科書を中心にまとめ、次回の授業に臨むこと(1時間程度)。

地域の高齢者や障害者の生活パターンに興味をもって観察を行い、実際に接する機会をもつなど、日常的な意識化を図ること。

《履修に当たっての留意点》

精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 人生の最終段階における「死」の捉え方について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	生物学的死、人生の最終段階における医療のあり方、アドバンス・ディレクティブ、インフォームド・コンセントについて講義を行う。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 「死」に対する分類や考え方について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	脳死、安楽死、尊厳死について講義を行う。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 「死」に対する心理的变化を理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	キュブラ・ロスの「死」の受容プロセス、全人的トータルペイン、死の準備教育について講義を行う。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 終末期から危篤状態におけるからだの変化について理解し、具体的に対応することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	終末期から臨終期における身体の変化およびその対応について講義を行う。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 臨終期(死亡時)の対応方法を理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	医師による死亡確認、死亡診断書の取り扱い、家族対応、遺体の取り扱いについて講義を行う。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族が「死」を受容するための支援について理解することができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	家族の「死」を受容するプロセス、「死」の準備教育、グリーフワーク、グリーフケアについて講義を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策②		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策③		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策④		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策⑤		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策⑥		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策⑦		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策⑧		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	・教科書 新・介護福祉士養成講座こととから だのしくみ	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	国家試験対策⑨		

	介護福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	発達と老化の理解	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期 火曜3・4限	教室名	501・502
担当教員	牧 雪枝	実務経験とその関連資格	病院にて臨床検査技師、臨床病理士として勤務。主業務は生理機能検査、病理学検査などを行っていた。		

《授業科目における学習内容》

老化にともなうところからだの変化を理解し、生活への影響について説明することができる。
高齢者に多い症状と疾患について理解し、生活上の留意点を述べることができる。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

・教科書:『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 中央法規

《授業外における学習方法》

教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。
授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

国家試験の合格を目標とすると同時に、人の発達と老化に関する知識を習得し質の高い介護を提供できる福祉職を目指し頑張ります。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 フレイルについて説明できる。	・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	老化にともなう身体的な変化と生活への影響について講義 『加齢にともなう生理機能の全体的低下』について理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 ロコモティブシンドローム、認知症、難聴について説明できる。	・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	老化にともなう身体的な変化と生活への影響について講義 『骨・筋、脳・神経、感覚器系機能の変化』を理解する。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 レッグパンピング、咳嗽反射、嚥下反射について説明できる。	・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	老化にともなう身体的な変化と生活への影響について講義 『循環器、呼吸器、消化器系機能の変化』について理解する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 糸球体ろ過量、更年期障害、リンパ球の働きについて説明できる。	・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	老化にともなう身体的な変化と生活への影響について講義 『泌尿器、生殖器、内分泌、免疫系の機能の変化』を理解する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 ライチャードによる引退後の男性のタイプについて説明できる。	・教科書 『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	老化にともなう心理的な変化と生活への影響について講義 『認知機能、パーソナリティの変化』について理解する。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	適応機制、マズローの欲求階層説について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老化にともなう心理的な変化と生活への影響について講義『老化と動機づけ・適応』について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	老老介護やエイジズムについて説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老化にともなう社会的な変化と生活への影響について講義『社会のなかでの生活上の課題』について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年的超越理論について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	老化にともなう社会的な変化と生活への影響について講義『社会における老化理論』について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	サクセスフルエイジングについて説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	健康長寿に向けての健康について講義『健康日本21の基本的方向性』を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	廃用症候群と老年症候群について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に多い症状・疾患の特徴について講義『高齢者の症状や疾患の特徴』について理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨粗鬆症、パーキンソン病、脳血管疾患について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について講義『骨格系・筋系、脳・神経系疾患の概要』を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	白内障・緑内障、高血圧・虚血性心疾患について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について講義『皮膚・感覚器系、循環器系疾患の概要』について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	COPD・肺炎、消化性潰瘍・肝硬変について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について講義『呼吸器系、消化器系疾患の概要』について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿路感染症・慢性腎疾患、糖尿病、歯周病について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について講義『泌尿器系、内分泌、歯・口腔疾患の概要』について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腸がん、ウイルス感染症、うつ病、脱水症について説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解』 ・配布資料 	教科書の指定部分を読み、配布プリントの空欄部分に適切な語句を記入しておくこと。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点について講義『悪性新生物、感染症、精神疾患の概要』について理解する。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	医療的ケア(演習)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 木曜1・2限	教室名	501・502・演習室
担 当 教 員	海藤智子・明石直子	実務経験とその関連資格	海藤:看護師の臨床経験18年。医療的ケア教員講習会終了証。看護師国家資格。/明石:訪問看護にて勤務。看護師国家資格。			

《授業科目における学習内容》

医療的ケア・吸引/経管栄養

1、基本研修(講義形式、定時間50時間以上)2、演習(基本研修修了者)3、喀痰吸引(航空・鼻腔5回以上)気管カニューレ内部5回以上)4、経管栄養(胃ろうまたは腸瘻5回以上、経鼻経管栄養5回以上)5、実施研修(可能な限り)*併せて救急蘇生法演習についても1回以上実施

《成績評価の方法と基準》

①医療的ケア行為が安全に施行できること②ケアにより利用者の苦痛が取り除けたり、軽減できること③利用者・家族の命を守り、生活の質の向上に結び付くこと④介護福祉士のモチベーションとなり、高揚、維持に結び付くこと⑤医療的ケアを行うことで介護福祉士の社会的評価に結び付くこと。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版

《授業外における学習方法》

実技:4回実施後5回目試験 5回目に合格しなければ、合格するまで実施 5回目で合格とそれ以降で合格70%+
評価:合格70%+出席と授業態度30%

《履修に当たっての留意点》

高齢者を支援できるよう学ぶ。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 口腔、鼻腔、気管カニューレからの喀痰吸引の手順と留意点について説明できる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
	各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 口腔、鼻腔、気管カニューレからの吸引の手順、留意点、急変・事故発生時の対応と事前対策について理解する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 口腔からの吸引の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
	各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 口腔吸引の手順、留意点、急変・事故発生時の対応と事前対策について理解する。		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標 口腔からの吸引の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
	各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 口腔吸引の手順、留意点、急変・事故発生時の対応と事前対策について理解する。		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標 鼻腔からの吸引の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
	各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 鼻腔吸引の手順、留意点、急変・事故発生時の対応と事前対策について理解する。		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標 鼻腔からの吸引の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
	各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 鼻腔吸引の手順、留意点、急変・事故発生時の対応と事前対策について理解する。		

授業の方法		内 容			授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	気管カニューレからの吸引の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 気管カニューレ吸引の手順、留意点、急変・事故発生時の対応と 事前対策について理解する。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	気管カニューレからの吸引の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 気管カニューレ吸引の手順、留意点、急変・事故発生時の対応と 事前対策について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	胃瘻、経鼻、腸瘻による経管栄養の手順が説明できる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 経管栄養概論・急変・事故発生時の対応と事前対策と 経管栄養に必要な知識・技術を身に着け、実施手順を理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	胃瘻による経管栄養の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 胃瘻による経管栄養概論・急変・事故発生時の対応と事前対策と 必要な知識・技術を身に着け、実施手順を理解する。		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	胃瘻による経管栄養の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 胃瘻による経管栄養概論・急変・事故発生時の対応と事前対策と 必要な知識・技術を身に着け、実施手順を理解する。		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	経鼻経管栄養の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 経鼻による経管栄養概論・急変・事故発生時の対応と事前対策と 必要な知識・技術を身に着け、実施手順を理解する。		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	経鼻経管栄養の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 経鼻による経管栄養概論・急変・事故発生時の対応と事前対策と 必要な知識・技術を身に着け、実施手順を理解する。		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	胃瘻による経管栄養の演習ができる 腸瘻による経管栄養の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	胃瘻腸瘻による経管栄養概論・急変・事故発生時の対応と事前対策 胃瘻腸瘻による経管栄養に必要な知識・技術を身に着け、実施手順を理 解する。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	腸瘻による経管栄養の演習ができる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使ったデモンストレーション演習 腸瘻による経管栄養概論・急変・事故発生時の対応と事前対策と 必要な知識・技術を身に着け、実施手順を理解する。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	救急蘇生法、AEDの使い方について説明できる	医療的ケア 中央法規出版	予め教科書を読み、本 日取り組む内容の予習 を行なっておく
		各コマにおける授業予定	人形を使って救急蘇生法、AEDを用い、一連の救助活動の理解 ができる。		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	認知症の理解		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 木曜1・2限	教室名	501・502
担 当 教 員	石坪 浩規	実務経験と その関連資格	介護老人保健施設 介護職15年勤務 特別養護老人ホーム 介護職2年勤務			
《授業科目における学習内容》						
認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得できる。						
《成績評価の方法と基準》						
出席(20%)、レポート課題・参加度(10%)、試験(70%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解(中央法規)						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと、毎回授業の最初に前回授業内容についての確認をするので、復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
認知症について基本的な知識と技術を備えることができるよう目標をもって取り組むこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	認知症の原因疾患、中核症状、周辺症状についての理解ができるようになる。		最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	前期で使用した教科書の内容やプリントを復習する。	
	各コマにおける授業予定	前期の復習(認知症の原因疾患、中核症状、周辺症状)				
第2回	授業を通じての到達目標	認知症の人の体験・本人本位の視点について学び、立場による視点を理解できるようになる。		最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材123ページから137ページまでを読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	事例などを通じて、認知症の人の体験・本人本位の視点について学ぶ。				
第3回	授業を通じての到達目標	認知症の人の体験・本人本位の視点について学び、立場による視点を理解できるようになる。		最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材123ページから137ページまでを読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	事例などを通じて、認知症の人の体験・本人本位の視点について学ぶ。				
第4回	授業を通じての到達目標	認知症の人の思いを理解し、支援内容を考えるための基本を学ぶ		最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材123ページから137ページまでを読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	認知症当事者の視点からみえるもの				
第5回	授業を通じての到達目標	これまでの認知症を取り巻く背景を学び、認知症ケアの今後の方向性について考える		最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材100ページから109ページまでを読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	認知症お取り巻く状況 これまでー今ーこれから				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症ケアの理念と倫理、認知症の人とのかかわりについて学ぶ	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材110ページから121ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	認知症ケアの理念と視点		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーソン・センタード・ケアを理解し、認知症の人の言動の背景にはさまざまな要因が影響していることを学ぶ。	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材140ページから179ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	パーソン・センタード・ケア／認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人とのコミュニケーションにおける留意点について理解する。認知症の人の生活障害へのケアについて理解する	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材181ページから215ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人とのコミュニケーション／認知症の人へのケア		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護を受ける人の能力をうばわない重要性を学び、介護のゴールは相手とよい関係を築くことであると理解する	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材217ページから235ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人へのさまざまなアプローチ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期における高齢者の現状、認知症の人がかかえる課題を理解する	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材237ページから243ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	認知症の人の終末期医療と介護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境の要素を理解し、とくに認知症の人にとっての物理的環境の役割と重要性を知る	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材245ページから255ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	環境づくり		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族介護者を支える介護福祉職の役割を理解する。また、介護福祉職が現場でやりがいをもって、安心して働き続けられる環境を整備する方法を学ぶ	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材258ページから291ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	家族への支援／介護福祉職への支援		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	新オレンジプランに位置づけられた機関やサービスを理解する	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材294ページから305ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	制度、サービス、期間、地域づくり		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の人が地域で継続して暮らすために、多職種連携と協働が必要であることを理解する	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	使用教材306ページから321ページまでを読むこと。
		各コマにおける授業予定	多職種連携と協働		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	今まで学んできた認知症についての理解を深めることができる	最新・介護福祉士養成講座13認知症の理解	今までの授業で使用した教科書の内容やプリントを復習する。
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	こころとからだのしくみⅡ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期 火曜3限・4限	教室名	501・502
担 当 教 員	立脇 一美	実務経験と その関連資格	看護師としての臨床経験が約30年。社会福祉士として介護認定審査会委員を約20年。介護支援専門員・認知症ケア専門士の資格あり。			
《授業科目における学習内容》						
人間の生活行為の一つひとつには、なぜその行為を行うのかという理由や根拠が必ず存在する。またその行為を遂行するために、タイムリーに「こころ」と「からだ」の機能が柔軟に変化し続け、同時に双方がバランスを保っている。特に高齢者や障害者などは心身機能の低下が生活機能に及ぼす影響が大きく、具体的には現場において、心身機能を考慮した上での質的対応が必要となる。 一つの生活行為に随伴してからだの中でどのようなことが起こっているのか、解剖生理学的な理解を中心に、生活援助の妥当性について説明することができる。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ(中央法規)						
《授業外における学習方法》						
次回授業予定の内容について、教科書の該当範囲を熟読しておくこと(1時間程度)。 授業終了後、板書内容や教科書を中心にまとめ、次回の授業に臨むこと(1時間程度)。 地域の高齢者や障害者の生活パターンに興味をもって観察を行い、実際に接する機会をもつなど、日常的な意識化を図ること。						
《履修に当たっての留意点》						
精神的・身体的・社会的な健康を理解したうえで、利用者の健康状態を判断する基準、そして介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準となる知識をしっかりと理解していきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	移動に関する「骨」の解剖生理について知見を高めることができる。		・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度)。 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)	
	各コマにおける授業予定	骨の名称、骨の解剖的理解、骨の強化の必要性に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。				
第2回	授業を通じての到達目標	移動に関する「筋肉」の解剖生理について知見を高めることができる。		・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度)。 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)	
	各コマにおける授業予定	筋肉の名称、筋力の強化の必要性、筋力低下の弊害、フレイルとサルコペニアの違いに焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。				
第3回	授業を通じての到達目標	関節可動域と主動作筋について知見を高めることができる。		・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度)。 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)	
	各コマにおける授業予定	抗重力筋や関節の屈曲と伸展、内転と外転、内旋と外旋、回内と回外に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。				
第4回	授業を通じての到達目標	骨、筋肉、関節等、移動に関する代表的な疾患について知見を高めることができる。		・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度)。 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)	
	各コマにおける授業予定	廃用症候群、骨粗鬆症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、関節リウマチ等に焦点を当てて講義を行う。				
第5回	授業を通じての到達目標	口腔内の構造と機能について知見を高めることができる。		・教科書 新・介護福祉士養成講座こころとからだのしくみ	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度)。 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)	
	各コマにおける授業予定	唾液の機能、舌の機能、歯の解剖生理に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	目の構造と機能について知見を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ ・副読本 からだのしくみ事典 	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	ものが見える仕組み、老眼に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳の構造と機能について知見を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ 	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	「聴こえ」の仕組み、「平衡感覚」の仕組みに焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	爪の構造と機能について知見を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ 	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	爪の解剖生理、爪の変化と予測される疾患に焦点を当てて講義を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴の作用(温熱作用、静水圧作用、浮力作用)について知見を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ ・副読本 からだのしくみ事典 	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	入浴時の注意点、温度変化による自律神経の作用に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚の構造と機能について知見を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ 	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	発汗の仕組み、皮膚の汚れに焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	加齢に伴う皮膚機能の変化について知見を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ 	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	「かぶれ」と「かゆみ」の機序に焦点を当て、それに関連する疾患についてもあわせて講義を行う。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	入浴におけるリスクマネジメントについて知見を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ ・副読本 からだのしくみ事典 	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	脱水、熱傷、湯あたりに焦点を当てて講義を行う。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚トラブルを起こしやすい疾患について知見を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ ・副読本 からだのしくみ事典 	予習:教科書の該当範囲を読む(1時間程度). 復習:板書内容や教科書を中心にまとめ、ノート整理を行う(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	糖尿病、疥癬に焦点を当てて講義を行う。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ 	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去に出題された問題を解き、その解答とそれを導く考え方やポイントについて学び、知識を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新・介護福祉士養成講座こころからだのしくみ 	予習:第1回から第13回までの授業内容を振り返り、教科書の該当ページを読み返す(1時間程度). 復習:配布資料や板書内容を中心にまとめ、
		各コマにおける授業予定	国家試験対策		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護総合演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 金曜1,2限	教室名	401・402
担 当 教 員	海藤智子・松永壮平	実務経験と その関連資格	海藤:看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年/松永:特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務。			

《授業科目における学習内容》

実習の教育効果をあげるために、実習前、実習中の取り組み、実習後のまとめなど計画的に進めることができる。
実習後の事例報告会ケーススタディ報告会にて自身の学んだ成果を発表することができる。
実習に必要な知識・技術、介護過程の展開の能力などを総合的に身につけることができる。

《成績評価の方法と基準》

出席評価点:20% 平常評価点10% 提出課題、レポート70%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」

《授業外における学習方法》

介護福祉実習Ⅱ-②の報告会 準備、報告を行う。実習Ⅱ-②での学びをケーススタディでまとめ、今後の介護福祉士とし業界で働く為の成長課題を見つける。時間外も自分の実習からの振り返りとして、自己学習を行う。実習後のケーススタディについて(学びたい事柄を明らかにし、事前学習をすすめる)。

《履修に当たっての留意点》

介護福祉実習Ⅱ-②報告会終了後は、ケーススタディ作成し、自分自身の今後の課題を見出す

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
	各コマにおける授業予定	実習報告会準備		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
	各コマにおける授業予定	実習報告会準備		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 実習報告会にて、自身の学びを発表することができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
	各コマにおける授業予定	実習報告会		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 前回実習からの改善点が明らかになり、達成可能な目標設定ができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
	各コマにおける授業予定	実習Ⅱ-②の評価の振り返りから今後の課題を見出す		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
	各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②のケーススタディーをまとめる	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの作成		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②ケーススタディーの内容より自分の傾向を知り、今後の課題を見出す事が出来る	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	配布資料を熟読しケーススタディーの下調べ・レポートの作成準備をし授業に臨む。パソコン使用しケーススタディーをまとめていく
		各コマにおける授業予定	ケーススタディーの発表		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	国際福祉論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	501
担 当 教 員	海藤 智子	実務経験と その関連資格	看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年			

《授業科目における学習内容》

海外の福祉と文化を学び実際に見学体験をする

《成績評価の方法と基準》

海外研修に参加しレポートの提出

《使用教材(教科書)及び参考図書》

配布プリント

《授業外における学習方法》

インターネット等でアメリカの福祉について予習を行う

《履修に当たっての留意点》

積極的に英会話に取り組む

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 研修日程の確認し、その内容を理解できる①	配布プリント	配布プリントを事前に確認
	各コマにおける授業予定	研修のスケジュールや内容、また現地の状況について、海外事業部担当者、名鉄観光担当者からレクチャーする		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 研修日程の確認し、その内容を理解できる②	配布プリント	配布プリントを事前に確認
	各コマにおける授業予定	研修中の服装やマナー、準備物、出発当日の集合注意事項等具体的な事柄について、海外事業部担当者、名鉄観光担当者からレクチャーする		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 研修旅行全般の注意事項について理解できるようになる①	配布プリント	配布プリントを事前に確認
	各コマにおける授業予定	海外における安全面での諸注意について海外事業部担当者、名鉄観光担当者からレクチャーする。また海外旅行保険、レンタルスーツケースの案内を行う		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 研修旅行全般の注意事項について理解できるようになる②	配布プリント	配布プリントを事前に確認
	各コマにおける授業予定	米国ドルの用意の仕方や注意事項、出入国際の英会話、出入国カードの質問事項の確認など、海外事業部担当者、名鉄観光担当者からレクチャー、必要事項の確認を行う		
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標 海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
	各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修 (オリエンテーション)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(事例検討、講義)		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(事例検討、講義)		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(事例検討、講義)		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(学生研究発表)		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(学生研究発表、学生交流)		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(高齢者施設見学)		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(高齢者施設見学)		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(高齢者施設見学)		
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通し現地を知ることができる	海外研修のしおり	海外研修のしおりを事前に確認
		各コマにおける授業予定	アメリカ、シアトルにて研修(まとめ、振り返り、修了式)		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	海外研修報告会で振り返りを行い、学を深めることができる	配布プリント	配布プリントを事前に確認
		各コマにおける授業予定	海外研修の内容をまとめ、1年生に向けて発表		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	医療的ケアⅡ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 火曜1・2限	教室名	501・502
担 当 教 員	海藤 智子	実務経験と その関連資格	看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年			

《授業科目における学習内容》

医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できる様に必要な知識・技術を習得出来る。

《成績評価の方法と基準》

科目終了試験:70% 出席評価点20% 平常評価点10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:最新介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版 2019.

《授業外における学習方法》

授業における小テストや配布プリント・授業内容の復習をしっかりと行い授業に臨む

《履修に当たっての留意点》

医療的ケアは利用者に直接的な影響を与えるケア技術である。正しい知識・技術の取得を持って安全な医療的ケアを行える様に介護福祉士を目指す。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 呼吸維持の必要性、呼吸のしくみを説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・生命維持における呼吸の重要性について ・呼吸のしくみと主な呼吸器官の各部の名称と機能について ・換気とガス交換について 		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 いつもと違う呼吸状態を推測する為の項目を説明できるようになる。呼吸の苦しさがもたらす苦痛と障害が説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもと違う呼吸状態について ・呼吸困難がもたらす苦痛と障害について 		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 喀痰吸引が必要な状況を理解し説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・痰を生じて排出するしくみや・痰の貯留を示す状態について ・喀痰吸引が必要な状態について 		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 人工呼吸器のしくみ生活支援における留意点が説明できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器装着者に対する吸引、生活支援の留意点について ・人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医療職との具体的な連携内容について 		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 子供の吸引に関する留意点を説明できる。また利用者・家族の吸引に対する気持ちに沿った対応を行う為に必要な説明ができるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
	各コマにおける授業予定	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の吸引の留意点について ・利用者、家族の気持ちに沿った対応と留意点について 		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・吸引に伴う呼吸器系の感染の状態と感予防策について説明できる。 ・喀痰吸引に伴う危険、事後の安全確認について説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	呼吸器系の感染が起きた可能性を示す状態を知りまた感染の予防する為の予防策を学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引実施する事で生じる危険について学ぶと共に急変や事故発生時の対応について説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	急を要する状態の対応方法と急変、事故発生時の対応、多職種との連携体制について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	喀痰吸引で用いる物品の取り扱い、喀痰吸引の手順の留意点について説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	喀痰吸引の一連の流れの留意点、ケア、実施後の報告の仕方について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養概論を学ぶことで消火器系の役割・機能、消化・吸収のしくみを説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	・消化器官のしくみと役割、機能について ・嚥下のしくみについて		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化・吸収とよくある消化器症状について説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	・消化・吸収について ・よくある消化器の症状について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養とは何かを知り、栄養を注入する際に必要な知識について説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	・経管栄養が必要な状態について ・経管栄養のしくみと種類、経管栄養剤の種類、投与方法について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養実施時の留意点について説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	・経管栄養の実施時の留意点について ・子供の経管栄養について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養に関係する感染予防について説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	経管栄養を行っている状態の感染予防と口腔ケアの重要性について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養を受ける利用者と家族の気持ちと対応、説明と同意について説明できる様になる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	・本人、家族の経管栄養に対する気持ちにそった対応と留意点について ・経管栄養の実施に関する説明と同意について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認や急変、事故発生における対応について理解できるようになる。	教科書:中央法規介護福祉士養成講座15 医療的ケア	授業内容の予習・復習。授業で出された課題を実施する。
		各コマにおける授業予定	・経管栄養により生じる危険の種類について ・ヒヤリハット・アクシデントの実施と報告について ・緊急を要する症状について		

学 科	介護福祉科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護総合演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期 金曜1・2限	教室名	501・502
担 当 教 員	海藤智子・松永壮平	実務経験と その関連資格	(海藤)看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年 (松永)特別養護老人ホームでの10年の勤務を経て、専任教員として科目を受け持つ。		

《授業科目における学習内容》

実習の教育効果をあげるために、実習前、実習中の取り組み、実習後のまとめなど計画的に進めることができる。
 実習後の事例報告会にて自身の学んだ成果を発表することができる。
 実習に必要な知識・技術、介護過程の展開の能力などを総合的に身につけることができる。

《成績評価の方法と基準》

出席評価点:20% 平常評価点10% 提出課題、レポート70%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」

《授業外における学習方法》

介護福祉実習Ⅱ-①の報告会 準備、報告を行う。振り返りを行うことで、次回への課題を見つける。時間外も自分の実習からの振り返りとして、自己学習を行う。実習後のケーススタディについて (学びたい事柄を明らかにし、事前学習をすすめる)。

《履修に当たっての留意点》

報告会終了後は、介護福祉実習Ⅱ-②に向けての準備 実習日誌(目標の立て方、考察ができる)、事前学習を行っていく。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できている。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
	各コマにおける授業予定	実習報告会準備		
第2回	授業を通じての到達目標	実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できている。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
	各コマにおける授業予定	実習報告会準備		
第3回	授業を通じての到達目標	実習報告会にて、自身の学びを発表することができる。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
	各コマにおける授業予定	実習報告会		
第4回	授業を通じての到達目標	前回実習からの改善点が明らかになり、達成可能な目標設定ができる。	滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	次の実習に向けての苦手教科、苦手分野を学習を通して克服していく。
	各コマにおける授業予定	実習Ⅱ-① 評価振り返り から 実習Ⅱ-② 目標設定を行う。		
第5回	授業を通じての到達目標	就職フェアの意義、取り組むべき姿勢が理解できる。	別途資料	就職フェアでの回るブースの事前学習
	各コマにおける授業予定	就職フェアに向けての準備		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	アメリカ研修の目的、意義が理解できている。	別途資料	グループ分けした各発表内容の準備
		各コマにおける授業予定	アメリカ研修に向けた準備		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分の実習場面での課題が明らかとなり、そのための目標設定ができている。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	実習配属発表、実習書類について指導を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②に向けての書類が作成できている。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	実習書類作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②に向けての書類が作成できている。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	実習書類作成		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護計画、情報収集について復習し、対象者理解の重要性がわかる。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画、情報収集について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集から生活課題を導きだし、対象者理解が深まっている。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画、情報収集、生活課題について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集から、計画立案し実施、評価の一連の流れが理解できている。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画の立案、実施評価方法について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦手な分野、解けない問題が、その内容を理解し解けるようになっていく。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	自身の苦手や不正解となっている問題に取り組み、解答解説等を通じて、問題の傾向を理解、正解をすることができる。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習にまつわる事前準備や、実習中の必須事項が理解できている。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	電話連絡方法、事前訪問、カンファレンスについて		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②の内容の全体像を理解し、準備をして臨むことができている。	滋慶教育科学研究所 監修「実習と記録」 ／中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」	実習に向け、自身の事前課題を中心に取り組むこと。
		各コマにおける授業予定	実習直前指導		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	介護総合演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 金曜1,2限	教室名	401・402
担 当 教 員	海藤 智子/松永 壮平	実務経験と その関連資格	(海藤)看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年/(松永)特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務。			
《授業科目における学習内容》						
<p>実習の教育効果をあげるために、実習前、実習中の取り組み、実習後のまとめなど計画的に進めることができる。 実習後の事例報告会にて自身の学んだ成果を発表することができる。 実習に必要な知識・技術、介護過程の展開の能力などを総合的に身につけることができる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
出席評価点:20% 平常評価点10% 提出課題、レポート70%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
滋慶教育科学研究所監修 「実習と記録」/中央法規 最新介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」						
《授業外における学習方法》						
介護福祉実習Ⅱ-①の報告会 準備、報告を行う。振り返りを行うことで、次回への課題を見つける。時間外も自分の実習からの振り返りとして、自己学習を行う。実習後のケーススタディについて (学びたい事柄を明らかにし、事前学習をすすめる)。						
《履修に当たっての留意点》						
報告会終了後は、介護福祉実習Ⅱ-②に向けての準備 実習日誌(目標の立て方、考察ができる)、事前学習を行っていく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	就職フェアの意義、取り組むべき姿勢が理解できる。	別途資料	就職フェアでの回るブースの事前学習	
		各コマにおける授業予定	就職フェアに向けての準備			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	就職フェアの意義、取り組むべき姿勢が理解できる。	別途資料	就職フェアでの回るブースの事前学習	
		各コマにおける授業予定	就職フェアに向けての準備			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な福祉用具について学び、福祉用具の活用方法を理解する。	別途資料	バリアフリー展の出展ブースについての事前学習	
		各コマにおける授業予定	バリアフリー展			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームで目標に向けての企画力、チームワークを培う	別途資料	実施に向けての必要物品の準備やスムーズな運営を行うための当日のスケジュール管理	
		各コマにおける授業予定	新入生歓迎会準備			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームで目標に向けての企画力、チームワークを培う	別途資料	実施に向けての必要物品の準備やスムーズな運営を行うための当日のスケジュール管理	
		各コマにおける授業予定	新入生歓迎会準備			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会準備		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習での成果がまとめられ、報告する内容が準備できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会準備		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習報告会にて、自身の学びを発表することができる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習報告会の下調べ・レポートの作成準備をしてから授業に臨む。パソコンを使用し報告書をまとめていく。
		各コマにおける授業予定	実習報告会		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②に向けての書類が作成できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	実習書類作成		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護計画、情報収集について復習し、対象者理解の重要性がわかる。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画、情報収集について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集から生活課題を導きだし、対象者理解が深まっている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画、情報収集、生活課題について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集から、計画立案し実施、評価の一連の流れが理解できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	介護計画の立案、実施評価方法について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	苦手な分野、解けない問題が、その内容を理解し解けるようになっていく。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	自身の苦手や不正解となっている問題に取り組み、解答解説等を通じて、問題の傾向を理解、正解をすることができる。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習にまつわる事前準備や、実習中の必須事項が理解できている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	前回実習のファイルを見直す、振り返ること。授業内で作成できない時には、宿題とする。
		各コマにおける授業予定	電話連絡方法、事前訪問、カンファレンスについて		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習Ⅱ-②の内容の全体像を理解し、準備をして臨むことができている。	滋慶教育科学研究所監修「実習と記録」／中央法規 最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」	実習に向け、自身の事前課題を中心に取り組むこと。
		各コマにおける授業予定	実習直前指導		

学 科	介護福祉科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	介護実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	376 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	2・1年生		学期及び曜時限	通年 8月・2月	教室名	実習施設
担 当 教 員	海藤 智子 他	実務経験と その関連資格	看護師国家資格・医療的ケア教員講習会終了証・看護師の臨床経験18年			

《授業科目における学習内容》

学校で学んだ理論や方法を施設において体験し、個々の利用者に合わせた日常生活の介護の応用能力を養う

《成績評価の方法と基準》

実習評価表:50% 実習日誌記録物:50%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所

《授業外における学習方法》

全ての教科の授業内容が関連し、施設での総合的、応用的な知識、技術の実践を行う。そのため、今まで学んだ内容の復習及び事前学習を自ら行うことを求めている。

《履修に当たっての留意点》

介護過程の授業との関連性から、介護計画立案、実施、評価を行います。授業内容を理解し、利用者個別の介護計画の立案に向けて取り組んでいくこと。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標 利用者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解し、その人らしさを引き出すことができる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	個別ケア、自立支援について、その人らしさ		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標 行事やレクリエーション等の意義を理解できている	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	行事やレクリエーション等の意義を学ぶ		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標 参加者の様子、介護者の関わりを観察し、情報把握、収集ができる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	参加者の様子、介護者の関わりを観察する		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標 準備、実施、評価等介護者の役割について理解する	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	レクリエーションを企画、運営し、評価を行う		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標 老人福祉法制定後の介護に関連する施策の概要を理解することができる。	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	・教科書の指定部分を事前に読んでおく。 ・授業終了時に示す課題を実施しておく。
	各コマにおける授業予定	介護保険法に至る中での、日本の介護福祉の変化のありようについて理解し、今日の介護について知る。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士としての一連の介護過程の展開を実践することができる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護過程の展開についての復習		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	情報収集し、アセスメントができる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護過程の情収集、アセスメントについて		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	生活課題の明確化・立案ができる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	生活課題の明確化・立案		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護計画に基づき、実施ができる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護計画の理解、計画の実施		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実施したことを評価・修正できる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	介護計画の実施後の評価、修正、再アセスメント		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員として介護を遂行することができる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	多職種連携、チームケアについて		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	変則勤務における情報の共有	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	変則勤務(早, 遅, 夜間)を理解する 情報共有の方法について知る		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の継続的な観察の重要性について理解する	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	24時間ケアを提供することの意味、継続性について		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方を理解できる	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	ICFの視点、求められる介護福祉士像		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	利用者の「できる活動」を見出し、「する活動」へと支援する	教科書:実習と記録 滋慶教育科学研究所	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおく。 授業終了時に示す課題を実施しておく。
		各コマにおける授業予定	ICFの視点、求められる介護福祉士像		